

長崎県における実践的な防災教育について

課題

- ①過去の大規模な水害は「昔の話」
→「災害に備える」感覚の希薄化
- ②防災知識の一方的な伝達
→防災の知識は学べるが実際の行動に移せない
- ③避難訓練のための訓練になっている



実践的な防災教育が求められる

実践的な防災教育

- ①過去の水害の被害状況を学ぶ機会をつくること
- ②座学で過去の水害について学ぶだけでなく学んだことを活かせるように実際に体験できるカリキュラムを組むこと
- ③多様な主体(消防、警察、地域住民など)と連携を取り、訓練に危機感と緊張感を持ってもらうこと

提案

県が一律に県内の小中学校に対して防災教育に取り組む時間数を決めて防災教育の内容を充実させる必要があるのではないか